

# 班・組活動で、スカウトが店の品物を壊してしまった

ボイスカウト茨城県連盟コミッショナーグループ

## ●状況

南茨城第〇団のカブ隊が組活動で組ごとに地域の特色を調べていた。商店を訪ねていた3組のスカウトが商品を落として壊してしまった。

## 【前提】

- ①各組に緊急連絡用の手段を持たせていること。  
多くの場合は、テレホンカードか10円であろう。
- ②集会実施計画書が団に文書として出されていること。  
各組の動きや指導者・デンリーダーの動きを記載した一覧表が必要である。
- ③調べる商店には事前をお願いしてあること。

## 3つのポイント

- 1 即時連絡
- 2 速やかな謝罪
- 3 弁償への対応

## 1. 即時連絡

### ①スカウトから隊長への即時の連絡

商店に入った場合、商品にさわらない、店内では静かにしているなどの事前指導は当然必要である。しかし、このような指導をしていても事故は起こることがある。

このとき、次の状況が**最悪**である。

#### 「商店で商品を壊して、何も連絡せずに戻ってくる」

組活動で事故などの緊急事態が起こったならば、どんなことでも隊（隊長）に連絡するように事前指導を徹底しておかなければならない。

特に、次の二点が重要である。

- 事故などが起こったらすぐに隊長に連絡せよ。
- 班・組全員がその場に待機せよ。

交通事故に限らず、商品を壊したような場合も同様である。この状況でも、即時の連絡が大事である。

### ②隊長と団の両者への連絡

スカウトからの連絡が隊長に入った場合、団（団委員長）に連絡をする。

逆に、スカウトからの連絡が団（団本部）に入った場合、団委員長に情報を伝えるとともに隊長に連絡をする。さらに、隊長にはすぐに現地（商店）に行くように指示する。

隊長と団委員長（団）の両者が情報を共有していることが必要である。

さらに、隊長には「のちほど団委員長が謝罪に行くことを商店主に伝えること」を指示する。

## 2 速やかな謝罪

### ①隊長は商店へ向かう

連絡を受けた隊長は、すぐにその商店へ向かう。隊長が着くまで、スカウトは現地に待機させておく。

### ②事実の確認をする

スカウトに会ったら事実の確認をする。

- ◇何を壊したのか。
- ◇どのような状況で壊したのか。（何をしたのか）
- ◇誰が壊したのか。

### ③商店主に謝罪をする

壊したスカウトとともに商店主にあやまる。

最後に、のちほど団委員長が謝罪に来ることを付け加える。

### ④商店を出てからスカウトに指導をする

きちんとすぐに連絡したことをほめ、事実を再確認する。個別に指導が必要な場合は、ここで行う。

なお、再確認した事実はメモし、記録としてまとめることができるようにしておく必要がある。

### ⑤団へ報告する

組に次の活動の予定があれば、次の活動に向かわせる。なければ、すぐに帰着させる。

隊長は、団（団委員長）に事故の概略を電話で報告する。

### ⑥管理職が商店に出向く

その日のうちに、団委員長がその商店へ謝罪に行く。

こちらに非がある場合には、「その日のうちに」に謝罪することが原則である。

翌日になると、謝罪の意味も半減する。

## 3 弁償への対応

### ①団委員会への連絡と相談

壊した商品にもよるが、商店から弁償の要求はこないことが多い。しかし、弁償を全く考えずにいるわけにはいかない。弁償を前提として考えておかなければならない。

隊には弁償に用いる予算はない。したがって、団委員会に報告し、相談する必要がある。

### ②事故記録の作成

団委員会に相談する場合には、事故記録が必要となる。また、今後の対応や活動時のスカウトへの指導の資料とするためにも事故記録は必要である。

隊長のメモをもとに事故記録を作成しておく。